平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号	11 － 44

1　事務事業の表示

※ ■ ：　該当

事務事業名	読書促進事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		図書業務係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
		氏名	髙橋健仁		氏名	櫻井輝久
事業の概要	多様な学習目的と複雑かつ高度化する生涯学習ニーズ及び利用者の利便性の向上に対応するため、図書館図書の整備を行う。			全体計画 /期間限定複数年度（平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	20,250 千円
					事業費計	20,250 千円
実施方法	■ 直営		□ 民間委託		□ その他（　　）	
第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業		□ 非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単位施策	4	図書サービスの充実			
	事務事業の種類	■	自治事務	□	法定受託事務	
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	2,650 千円	3,650 千円	4,148 千円	5,000 千円	5,150 千円
	合計	2,650 千円	3,650 千円	4,148 千円	5,000 千円	5,150 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	町民	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	貸出冊数は堅調であるものの、施設環境等の要因とも合わせ、来館者の固定化が見られる。	購入冊数3,416冊、町民一人当たり年間貸出冊数10冊		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	多種多様化する町民ニーズに対応した読書活動や図書館環境の向上を図る。	① 図書購入冊数	目標年度	22年度
			目標値	3,416 冊
			実績値	3,285 冊
			達成度	96.2 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	読書活動や図書館環境の向上を図ることにより、町民にとって魅力的な図書館を創出するとともに、町民の学びを支援する。	② 一人当たり貸出冊数	目標年度	22年度
			目標値	10 冊
			実績値	7.1 冊
			達成度	71.2 %

内容（どのような手段で何を行ったか）	
①図書購入冊数	3,285冊　（前年度比　812冊増）
②年間貸出冊数	・年間貸出冊数　34,343冊（前年度比　4,169冊増） ・一人当り年間貸出冊数　7.1冊（前年度比　1.0冊増）
③ブックスタート	子育て支援の一環として、6・7ヵ月健康相談時に読み聞かせを行い、絵本（2冊）を贈呈した。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	蔵書の充実は魅力的な図書館づくりの基本であり、町民の生涯学習に対応するために必要である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	蔵書の充実と専門職員のレファレンスの充実等により、町民の要望に対応できるようになり、年々貸出冊数も大幅に増加してきていることから、有効な事業である。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	再販法により図書購入自体のコスト削減は困難であるが、貸出冊数が大幅に増加しており、町民利用の面からコストに見合った効果が得られている。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	町民の多様なニーズに対応し蔵書の充実を図っているため、公平性は保たれている。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
町民の読書活動や図書館環境の向上を図るため、計画どおりの事業を達成した。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
50,000冊の蔵書を計画的に進めるため、本事業の継続が必要である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）